

福井大学の 特色ある取組

2012年4月

福井大学は、社会から頼りにされる“元気な大学”の実現を目指します。

福井大学

創造力、実践力。

国立大学法人



福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

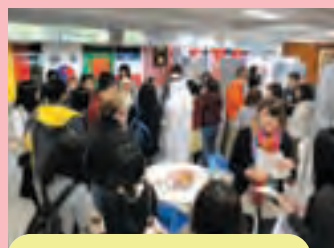
**NEW
TOPIC!**

福井大学語学センター始動

～グローバル社会で活躍できる人材の輩出を目指して～

- 平成23年4月に語学センター設置。
平成24年4月に公募により優れた業績を持つ新センター長を迎え本格始動。
- 交流や情報提供の場となる「国際ラウンジ」をオープン予定（文京キャンパス：平成24年10月頃、松岡キャンパス：平成24年度中）
- 「課程内教育の強化」
「質の高いプラスαの教育」
「モチベーションの向上・学習環境の整備」
の3つの柱を掲げ、実践力を備えたグローバル人材の育成を目指す。
- 将来的には、地域や企業の方々へ「大学ならではの語学教育」を提供。他言語への拡大も視野に入れる。

「国際ラウンジ」イメージ



交流コーナー

日本人学生と留学生の交流



語学学習・留学 情報コーナー



語学学習・ 留学相談コーナー

(1) 地域を支える優れた人材の輩出

■教育地域科学部 —地域の次世代を育てる教員の養成—

- 福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,686人
- うち本学の卒業生数 3,262人

■医学部 —地域医療を担う医療人の養成—

- 福井県の医師数 1,922人
- うち本学の卒業生数 562人
- 看護学科では県内で唯一助産師を養成

■工学部 —地域産業を創造する技術者の養成—

- 福井県のエンジニア、科学研究者 12,371人
- うち本学の卒業生数 4,684人



※福井県のデータは、教：平成22年度学校基本調査、医：平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査、工：平成17年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、いずれも平成22年度時点の同窓会データより。


(2) 実践力重視の教員養成教育

■ 「福井大学方式」：学校現場が大学院

- 小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に
- 米国、フィンランド、中国、韓国との国際共同研究を展開

■ 1年間の長期インターンシップ

『実践重視の福井大学方式を高く評価』



学校現場を「講義室」として位置付け、教員が出向いて現職教員の院生と教育研究を行ったり、学部卒の院生に1年間学校でのインターンシップを課す学校拠点方式を高く評価し、「(教師教育)改革のモデルにしたい。」と話した。

鈴木寛前文部科学副大臣

H22. 2. 28 福井新聞記事より



(3) 高度な臨床能力を備えた医療人の育成

■ 革新的画像医学教育：高度化が進む画像診断で医師の「診る」を支える

- 人体解剖画像、病理組織画像に加え、CT, MR, PET などの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、統合的に登録できる医学画像教育専用サーバーを整備
- 臨床基礎科目および臨床実習の場で利用され、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■ 看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成



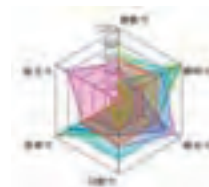
看護実習

- 幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）が出来る独自カリキュラムを実施。県内で唯一助産師を育成
 - 社会のニーズに対応した「がん看護学」や「災害看護学」を導入
- <関連機関>
- 看護キャリアアップセンター：高度専門化する医療・看護の社会的ニーズに応えるため、認定看護師部門等を設置し、看護職のキャリアアップを支援

(4) 実践的能力を備えた技術者の養成

■充実した学士力を身につける初年次教育プログラム

- グループワークでジェネリック・スキル（汎用的能力）向上
- JIBUNポートフォリオで自己教育・就職活動サポート
- 先輩セミナーにより職業観を形成・勉学意欲高揚
- 補習授業により基礎学力を定着
- 複合型高大連携で専門科目へ滑らかに接続



学士力グラフ
半期毎に成長度を確認



数学学習支援室
確実な基礎学力の
習得をサポート

■夢を形にする技術者育成プログラム

- 学科や学年を越えた学生主体の創成活動

<育成される能力>

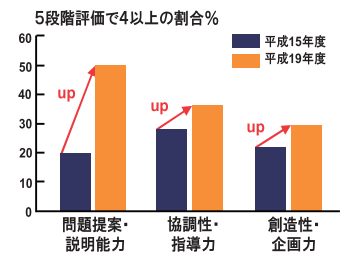
- 広い視野と創造力・企画力
- 課題を発見・解決する力
- 提案・説明する力
- 協調する力



福井大学フォーミュラ製作プロジェクト
(機械工学科 他)

▶就職先企業からも高く評価

就職先企業に対するアンケート調査(78社)



(5) 就職率 国立大学1位を獲得※

■卒業生が1,000人以上の大学

(平成22年度実績)

- ・就職率 **94.7%** 国立大学 **1位**
- ・全ての国公立大学の中でも **1位**

■複数学部を有する国立大学では

4年連続1位を獲得



- ・H19年度 95.3%
- ・H20年度 97.2%
- ・H21年度 94.3%
- ・H22年度 94.7%

福井大学の取組が
全国でも注目され、
出版社から刊行！

全国 240 大学 就職率ランキング (卒業生数 1,000 人以上)

順位	区分	大学 (所在地)	卒業生数	就職者数	大学院進学者数	09就職率	10就職率	11就職率
1	国立	福井大学 (福井)	1,214	824	344	97.2	94.3	94.7
2	私立	国際医療福祉大学 (栃木)	1,042	968	14	93.0	96.2	94.2
3	国立	岐阜大学 (岐阜)	1,355	842	451	94.8	91.3	93.1
4	国立	名古屋大学 (愛知)	3,839	2,286	1,380	90.0	90.1	93.0
5	国立	東京工業大学 (東京)	2,856	1,436	1,300	90.6	91.3	92.3
6	国立	電気通信大学 (東京)	1,321	706	550	93.0	86.4	91.6
7	国立	九州工業大学 (福岡)	1,668	920	651	95.8	93.9	90.5
8	国立	三重大学 (三重)	1,399	905	397	88.4	—	90.3
9	私立	芝浦工業大学 (東京)	1,840	1,160	552	91.3	89.8	90.1
10	私立	愛知工業大学 (愛知)	1,222	1,004	101	96.7	89.7	89.6
11	私立	金沢工業大学 (石川)	1,661	1,243	267	95.6	89.0	89.2
12	国立	鳥取大学 (鳥取)	1,362	869	379	—	88.4	88.4
13	公立	大阪府立大学 (大阪)	2,037	1,224	646	82.7	85.9	88.0
14	公立	兵庫県立大学 (兵庫)	1,253	791	350	89.0	86.9	87.6
15	国立	信州大学 (長野)	2,052	1,167	715	88.4	88.6	87.3

※卒業生 1000 人以上の大学、「—」はデータがないことや算出できないことを示す

※サンデー毎日 2011 年 7 月 24 日号

「就職特集第 1 弾 全国 240 大学 就職率ランキング」より

**NEW
TOPIC!**

附属国際原子力工学研究所敦賀移転

～日本・世界の原子力の安全・安心への貢献を目指して～

○2012年3月附属国際原子力工学研究所が敦賀市に移転し、「敦賀キャンパス」を開設

○原子力研究のより一層の充実、また原子力発電所立地地域の安全・防災危機管理の向上に努めるため、部門を再編

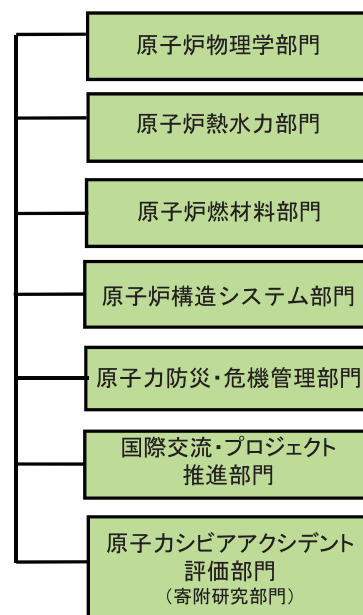
○「研究」「人材育成」「連携・拠点化」をキーワードに地域のポテンシャルを活かした活動を展開し、日本および世界の原子力の安全・安心への貢献を目指す

敦賀キャンパスにおける今後の活動

- ◆地域住民を対象とした公開講座、セミナー等の開催
- ◆嶺南地域の企業等を対象とした研究交流会等の開催
- ◆大学情報の発信、大学イベントの開催 など

2012.4.1

附属国際原子力工学研究所組織図



**NEW
TOPIC!**

連合小児発達学研究科に参加

～ALL JAPAN の教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明へ～

○大阪大学・金沢大学・浜松医科大学による連合小児発達学研究科に、平成24年度より千葉大学とともに新たに参加。5大学による ALLJAPAN 体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組む

<関連機関>

○子どものこころの発達研究センター：

新しい研究領域を創生し、革新的教育研究事業を展開

○附属病院「子どものこころ診療部」：

発達障がいを始めとした「子どものこころのひずみ」を解明することにより、こころの危機的状況にある子どもを救出・支援



子どものこころ診療部開設式

最先端研究成果を還元

福井県の発達障がい児
約 8,600 名
(幼児～高校生 H20 県の調査より)

(1) 地域特性を活かした世界的水準の研究

■高エネルギー医学研究センター

- 医学、薬学、工学を融合し、生体画像診断、分子イメージング、新薬研究、高次脳機能研究等を通じて医療の向上と社会貢献を目指す



第1回福井県科学学術大賞 (H18. 2. 7)



PET薬剤（放射性薬剤）製造用「サイクロトロン」

■最先端の臨床医学への応用

- PETを用い、子宮筋腫と悪性度の高い子宮肉腫を、高い確率で画像診断できる方法を世界で初めて開発



米国核医学学会「腫瘍診断部門」最高賞 (H23. 6)



日刊県民福井
(平成23年8月25日1面)

(2) 特色ある研究の取り組み①

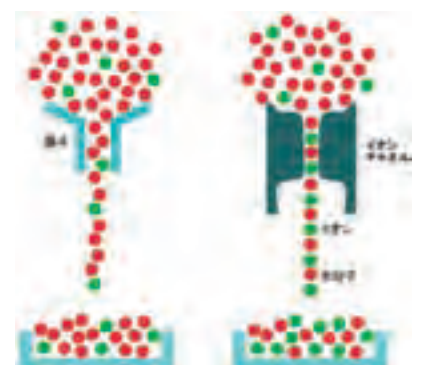
■医学部

- 薬品と結びついて効果を発揮する細胞の「受容体」の研究：
尿道を制御する新たな受容体を発見。排尿障害の新薬開発が進み
新薬開発に貢献



第7回福井県科学学術大賞 (H24. 2. 7)

- 細胞膜のたんぱく質分子「イオンチャネル」の研究：
イオンが細胞膜を通過する際、水分子と交互に通過していることを世界で初めて発見。不整脈や糖尿病などの新薬・治療法開発の可能性に期待
…米科学誌「ジャーナル オブ ニューロサイエンス」誌に掲載



イオンチャネルの研究：
水分子とイオンの交互通過を世界初発見

■遠赤外領域開発研究センター：遠赤外領域研究の世界的拠点

- 遠赤外領域における電磁波発生器「ジャイロトロン」を独自開発
- 世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を実証し、文部科学大臣表彰受賞



第6回福井県科学学術大賞 (H23. 2. 7)

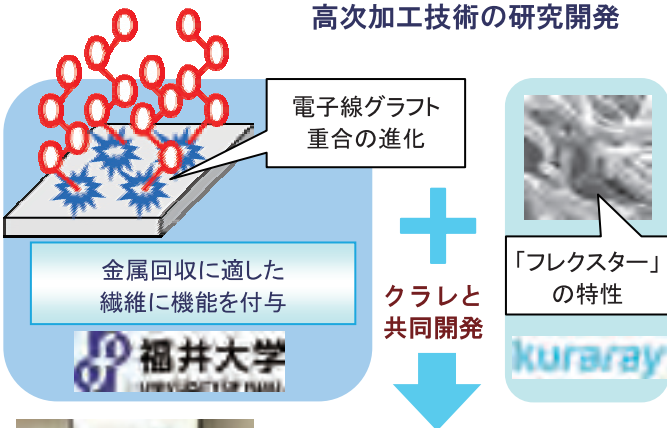


電磁波発生装置
「ジャイロトロン」

(3) 特色ある研究の取り組み②

■工学研究科

○レアメタル回収を可能にする繊維の高次加工技術の研究開発



電子線グラフト重合の進化

金属回収に適した繊維に機能を付与


福井大学

クラレと共同開発

「フレクスター」の特性

kuraray

福井大学の新発想の技術
+クラレのユニークな素材
=新技術の金属回収システムへ
(共同特許出願済)

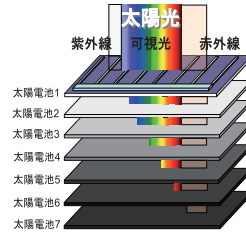


共同発表の様子

＜その他工学研究科の特色ある研究＞

○次世代高効率太陽電池の研究開発

窒化物タンデム太陽電池を世界初提案



タンデム型太陽電池とは？

利用波長の異なる太陽電池を複数積み重ねたもの

○液体窒素冷却高温超電導モータの開発



第4回福井県科学学術大賞受賞 (H21.2.7)

○リチウムイオン電池の開発

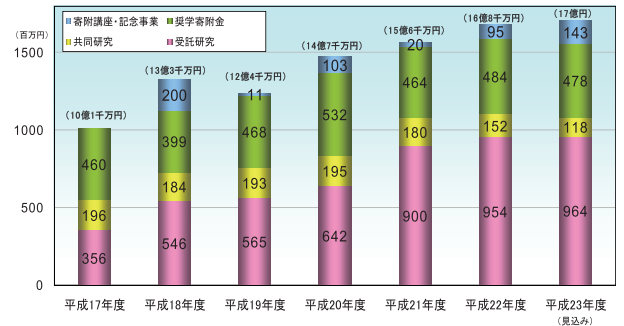


第5回福井県科学学術大賞受賞 (H22.2.7)

(4) 「福井方式」による地元産業界との連携

■産学官連携本部

- 「福井大学産学官連携本部協力会」
約200の企業・機関から支援を戴いて産学官連携活動を展開
- 「創業型実践大学院教育」「実践道場」
産業現場で活躍できる人材を産業界とともに育成
- 「ふくい産学官共同研究拠点」
燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の機器を多数設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進



ふくい産学官共同研究拠点の最先端機器

■地元産業界との“福井方式”による産学官連携・共同研究プロジェクトを推進

※“福井方式”とは、
大学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式

3. 医療 ～すべては“患者中心の医療”のために～

NEW
TOPIC!

医学部附属病院再整備が始動

～優れた地域医療人を輩出するハイクオリティーマディカルセンター～

- 平成24年3月から新病棟の建設を開始
- 「揺るぎなき地域診療拠点の構築」
 - 「実践重視型教育環境の充実」
 - 「福井ブランドの先進医療の開発・実践」
 - 「快適・安全な医療空間の提供」
 - 「堅固な経営基盤の構築」
- の5つの柱に沿って各施設を再編
- 平成26年9月開院予定
- 消化器や呼吸器、心・脳血管障害などの疾患別にセンターを開設し、治療の効率化を図る



イメージ図：救急前ピロティ



イメージ図：集中治療部

(1) 最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■県内で唯一の特定機能病院として先進医療と高度医療を提供

- 「最後の砦」として最重症疾患患者を受入

■大学病院初の北米型（ER）救急体制

- 一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を実践するため、365日24時間の受入態勢を確立

■パートナーシップ・ナーシング・システム

- 入院患者1人に対し看護師2人が担当する独自制度で、安心・安全度が向上し、より質の高い看護を提供

■周産期母子医療センター（NICU）

- 平成23年8月開設
- 産科・小児科医師の連携により、リスクの高い妊婦や新生児を受入



全ての患者を受入
“地域医療の最後の砦”として迅速に対応



NICU：最新型の機器を整備

3. 医療 ～すべては“患者中心の医療”のために～

(2) 地域医療の担い手の育成

■「緊急被ばくに強い救急総合医養成」プログラム …地域のニーズに即した医療人の育成

- 日常のあらゆる疾患を診療できる「総合医」
- 救急診療に関わる初期対応能力を備えた「ER型救急医」
- 有事に貢献できる「緊急被ばく医療専門医」

東日本大震災時に、受講生が現地に赴いてプログラムの成果を発揮し、現在も貢献中であることが、文部科学省に高く評価され、中間評価で唯一の最高ランクのS評価を獲得



■地域プライマリケア講座（福井県高浜町からの寄附講座） …「医師は地域が育て、守る」

- 和田診療所、高浜病院にて学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成



在宅診療を行う医師と研修医

(3) “健康長寿ふくい”のために

■福井県からの寄附講座「地域医療推進講座」設置 ○医師不足地域への新たな医師派遣システムの構築

■医師派遣

- 福井県内唯一の医学部として、県内を中心に
162の医療機関に医師を派遣

■産婦人科医が不足している地域の分娩を支援

- 分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため、設備を整備し分娩を受入
…自治体から大学へ寄付の条件を緩和する法改正に繋がるモデル的ケースに

■僻地医療を遠隔診断により支援

- TV会議システム、遠隔病理診断及び遠隔画像診断による支援



寄附講座協定書締結式



TV会議システムを利用した医療支援

4. 国際貢献 ～ 国境を越えて国際社会に貢献～

■東アフリカへの国際医学教育・医療支援

- 東アフリカに、広島大学・九州大学と協力して「東アフリカ外傷医学国際教育協力センター」設置
- 共同研究の推進や、国際協力機構（JICA）からの要請を受け、福井大学へ現地医師を受入

○福井大学で2年学んだ現地医師の言葉
（ウガンダ マケレレ大学医学部勤務）
「以前は、脊椎の手術で問題のある背骨を取り除くしか知らなかった。痛みがひどく、まひが残ることもあったが、今は背骨を残して神経だけを抜く方法を身につけた。患者の負担が改善され、誇りに思っている。」



医学教育アフリカ支援国際セミナー

■UAEプロジェクト：乾燥地帯に潤いを

- 高温・乾燥地のUAE（アラブ首長国連邦）における植物栽培のため、水分保持に優れているポリマーを使った吸水性繊維物を開発。芝生緑化や果物等の節水栽培を可能に
- 土壌から水分蒸発を抑える技術の開発・研究



UAEでの実験の様子

5. 評価 ～ 福井大学の實力～

（1）第1期中期目標期間評価 地方総合大学1位

■福井大学の教育・研究・社会連携・国際交流・業務運営に対して高い評価を獲得

全国86国立大学の中で総合7位

国立大学評価委員会（文部科学省）が公表する基準による評価ランキング

順位	大学名	総合評価 ウエイト
1	奈良先端科学技術大学院	71.00
2	滋賀医科	64.75
3	浜松医科	60.64
4	お茶の水女子	59.93
5	東京工業	59.76
6	東京	58.96
7	福井	56.24
8	東京外国語	56.00
9	東京医科歯科	55.43
10	京都	53.96

地方総合大学中1位
北信越ブロック1位

項目別評価点

	教育	研究	達成状況	業務運営	総合評価
福井大学	8.58	3.50	4.00	6.00	56.24
86大学平均	6.14	2.80	3.49	5.93	45.65

※総合評価＝（教育＋研究）×3＋（達成状況＋業務運営）×2

※福井大学事務局調べ

(1) 福井大学の支援活動

3月13日～
救急にも被ばくにも対応
できる医師として多数の
福井県の医師が福島へ。
本学の教授が全国の医師
の総括として現場を指揮



■教職員による支援活動

- 3/11～13 DMAT派遣（宮城）
- 3/12～ 看護学科教員による救援活動
- 3/13～ 被災者医療の専門家派遣（福島）
- 3/18～ 救護班派遣（宮城）
- 3/24～ 心のケアチーム派遣（宮城・福島）
- 4/28～ 工学研究科、附属国際原子力工学研究所等教員によるスクリーニング派遣（福島）
- 5/24～25 福井大学調査団（学長他13名）派遣（福島）
- 10月～ 福島県知事の依頼により、放射性物質除去・低減技術開発事業に係る支援として水産物の放射線物質の測定を実施（ライフサイエンス支援センター、高エネルギー医学研究センター）



DMAT（災害医療派遣チーム）の活動



救護班の活動



■学生ボランティア派遣

- 3/19～ 福井県災害ボランティアセンター連絡会や、福井県大学連携リーグ等が行うボランティア派遣に多数の学生が参加



看護学科の活動



スクリーニング活動

■その他活動

- 3/22 チャリティーコンサートを開催
入場料収入全額を被災地への義援金として寄附
- 3/22～ チャリティーコンサート、卒業式等でボランティアサークルの学生が募金活動を実施



水産物の放射線物質測定支援



学生ボランティア 陸前高田市でのがれき撤去活動

福井大学の理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国および国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究および医学研究を行い、専門医療を実践することを目的としています。

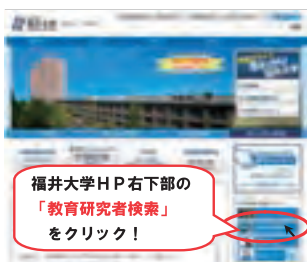
このような理念を踏まえ、本学では、次の4点を長期目標として、教育、研究および社会貢献などを推進します。

長期目標

- (1) 21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。
- (2) 教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに、本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。
- (3) 優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。
- (4) ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し、社会から頼りにされる元気な大学になります。



敦賀キャンパス
(附属国際原子力工学研究所)



☆福井大学にはどんな教育・研究をしている先生がいるの？

大学のHPから、福井大学に所属している研究者(教員)情報を検索できます。

<http://www.u-fukui.ac.jp/>

所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。ぜひご活用下さい。

- 大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せください。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号



[メールはコチラ]